

平成20年度 第36回 岐阜県高等学校選抜バスケットボール大会  
 兼 第39回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会  
 大会最終日:平成20年11月3日(月)  
 会場:岐阜アリーナ

## 男子の部

&lt;審判&gt;

決勝 岐阜総合 73  $\left[ \begin{array}{l} 16 - 17 \\ 17 - 13 \\ 24 - 20 \\ 16 - 15 \end{array} \right]$  65 美濃加茂 増田博徳・山田祐治

第36回選抜優勝大会の最後を飾る一戦は、両チーム大応援団の歓声の中始まった。美濃加茂はハーフコートマンツーマン、岐阜総合は2-3マッチアップゾーンでスタート。美濃加茂は小藺井を中心にゲームが展開され、宮嶋、中村のシュートでリズムをつかむ。岐阜総合は、田代、長尾のシュートで対抗し、序盤は膠着したゲーム展開となる。第1ピリオドは、美濃加茂が17-16と1点リードする。

第2ピリオド、両チームともディフェンスのプレッシャーが強く、互いにシュートが決まらない。岐阜総合はディフェンスをマンツーマンに切り替え、松井が相手のディフェンスをかいくぐりゴールを奪う。美濃加茂は小藺井の巧みなパスワークから、中村のシュート、小川のドライブで追い上げる。前半は、岐阜総合が33-30とリードして折り返す。

第3ピリオド、岐阜総合は松井の連続3点シュート、田代のミドルシュートでリズムよく攻め、リードを広げる。美濃加茂は小川、中村の3点シュートで必死に追い上げる。第3ピリオドで岐阜総合が57-50とリードして最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、岐阜総合は落ち着いたゲーム運びで、田代が1対1でシュートを決め、伊藤、長尾、寺井のシュートも次々に決まる。対する美濃加茂は小藺井の巧みなパスワークから、横家のゴール下の1対1、高橋のポストプレーで対抗するが、相手の厳しいディフェンスに得意の3点シュートが決まらない。結局最後までよく跳び、走りきった岐阜総合が、大応援団の声援をバックにして73-65で優勝を飾り、3年連続5回目のウィンターカップ出場権を獲得した。(鈴木雅雄)

## 女子の部

&lt;審判&gt;

決勝 岐阜女子 78  $\left[ \begin{array}{l} 21 - 11 \\ 19 - 6 \\ 24 - 12 \\ 14 - 16 \end{array} \right]$  45 高山西 松野瑞穂・棚橋英一

優勝の最有力候補にあげられる岐阜女子と、長身センター 武を中心に、他のチームをしりぞけてきた高山西が決勝に駒を進めた。第1ピリオド、両チームハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜女子は上原が攻守ともにチームの流れをつくり、汪、森本のゴール下シュート、荒井の3点シュートと着実に得点をあげていく。一方高山西は、武のフリースローラインからのフックシュートやゴール下のシュート、井川のドライブ、浅生のスティールからのシュートで食らいつくが、21-11で岐阜女子がリードする。

第2ピリオド、相手の激しいディフェンスでシュートまでもっていき3分間無得点が続く高山西に対し、上原が2連続スティールからシュートを決めるなどして、岐阜女子が40-17で前半を折り返す。

第3ピリオド、高山西は思うように得点があげられず、苦しい展開が続く中、室谷のミドルシュート、原の3点シュートで反撃するも、終始岐阜女子はコート狭しと走り回ってランニングプレーで攻め続け、64-29と点差を広げていく。

第4ピリオド、互いにチームファウルがかさんでいく中、高山西は最後まであきらめず、ゴールに向かい果敢に攻めるものの点差は縮められない。結局タイトなマンツーマンでプレッシャーを与え、容易にシュートまで行かせない全国レベルの貫禄を見せた岐阜女子が、78-45で優勝し、全国選抜優勝大会出場を決めた。全国大会での活躍を大いに期待したい。(土本 繁)